

THE YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.786 2019

2019年5月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料62円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塙町2番11号
TEL : 03-5367-6640 FAX : 03-5367-6641
URL : <http://www.ymcajapan.org/>
発行人／神崎 清一 編集人／山根 一毅
印刷／あかつき印刷株式会社



平和をつくりだす - 県民投票が示す沖縄からのメッセージ -



OPINION

沖縄の人びとの真の声

知念 一郎（沖縄YMCA理事長）

2019年2月24日、辺野古新基地建設の賛否を問う県民投票が行われました。投票の結果、投票者の43万票超という圧倒的多数の票が投じられ、新基地反対が民意として示されました。過去2回の知事選挙においても基地建設反対の民意が示されています。それにもかかわらず、今なお日本政府は県民の声を無視し埋め立て工事を強行しています。

なぜ、沖縄県民は基地建設に反対するのか。それは、沖縄県民が過去の歴史に学び「戦争の愚かさと平和の尊さ」を知っているからです。沖縄では、県独自の『琉球・沖縄の歴史』（ジュニア版）、『琉球・沖縄歴史と文化』（高校用）を編纂し、正しい歴史教育を行っています。6月23日の「慰霊の日」を休日と定め、県主催の「全戦没者追悼式」が行われるほか、その時期を平和学習月間と位置づけ小学校から高校、大学まで平和を考える学習が行われています。

今から140年前、「琉球国」は武力をもって解体され日本国に併合、1879年（明治12年）「沖縄県」となりました。これを沖縄では「琉球処分」と呼んでいます。その後は、日本国民として同化され、良き皇民として太平洋戦争に駆り出され、本土防衛の盾となって、地上戦に巻き込まれました。そして12万人余りの尊い命が奪われたのです。敗戦後の1948年、日本の独立と引き換えに沖縄は切り捨てられ、米国の植民地として提供されました。これを第2の「琉球処分」と呼びます。

24年後の1972年、米国の施政権から解放され念願の祖国復帰が実現し、「沖縄県」に戻りました。しかし、米軍基地は復帰後もそのまま居座り続けています。国土の0.6%に過ぎない沖縄に在日米軍基地の約70%があること自体、不平等、不公平、差別というものです。その上、さらに辺野古に巨大な軍事基地を造ることはとても受け入れ難い。戦時中、辺野古基地のある所は難民収容所でした。私は国民学校3年生の時（9歳）、その収容所で終戦を迎えました。故翁長沖縄県知事は、国連人権理事会において「自国の自由、平等、民主主義を守れない国が、どうして世界の国々とその価値観を共有できるでしょうか」と演説されました。沖縄県民は辺野古基地問題を人権問題と捉えています。特定地域の犠牲の上に成り立つ「平和と繁栄」は眞の平和とはいえない。

平和を脅かす軍事基地の建設に、沖縄YMCAは反対します。われわれの使命は「平和をつくりだす人」を育てることです。例えば、平和学習月間に合わせ、YMCA学童クラブで平和学習の実践、館内での写真・ポスター展示を通しての啓発活動のほか、他団体から要請を受けて平和学習を手伝うなどの教育的手段をもって実現していきます。

(OPINION…意味は「意見・見解」など。『THE YMCA』では毎号、関係ある団体・個人からの意見や提案を掲載します。)

琉球・沖縄・沖縄YMCAの歴史

歴史をさかのぼると、「琉球」の名は7世紀の中国史に見ることができます。1429年（日本の歴史では室町時代）に琉球王国が誕生しました。中国をはじめ、東アジアや東南アジア、朝鮮、日本などと豊かな交易の歴史を育んできました。しかし1879年に廃藩置県令が下り、「沖縄県」として日本に併合されます。琉球古来の言語や文化が否定され、同化教育が強行された「琉球処分」は、日本による中国や朝鮮の支配とも重なる歴史です。

太平洋戦争が終わる1945年、沖縄戦では十数万人の命が奪われ、その後、沖縄は米軍の施政権下に置かれました。ベトナム戦争の最前線基地となっていた1962年に、沖縄YMCAは創立しました。米軍の施政権下の沖縄において英語クラスや少年キャンプ、肢体不自由児キャンプ、ハイスクールYMCAなど、沖縄の青少年たちの未来に希望を与えるための活動をスタートしています。日本に復帰した1972年以降は、当時、学校に水泳プールの施設がなかった沖縄での水泳教室、さらにはスキーキャンプによる東京の子どもたちとの交流などが、全国のYMCAの協力を得ながら行われました。

今も沖縄の人びとは、依然として基地により経済や豊かな自然を奪われ、米軍による事故や暴行などへの不安を抱えながら、在日米軍施設の約70%を差別的に押し付けられています。そのような中、沖縄YMCAは社会問題についての講演会、国際交流、絵画展などを通じて沖縄の真の豊かさを創る活動に取り組んできました。また、時代にあわせて専門学校、幼稚園、そして放課後児童クラブなどを運営し、沖縄の地にあるYMCAとして、若者や子どもたちと共に、平和を創りだす人びとを育てる取り組みを続けています。

— 編集部 —

「平和」を語り継ぐ

沖縄YMCA児童クラブ職員 坂井 美咲

4月より縁があつて沖縄YMCAの児童クラブの専任職員として入職しました。大学在学中は、茨城YMCAで野外活動のリーダーとして活動をしていました。

これまで報道などで、普天間や辺野古の基地に関する問題に接し、また観光などで沖縄を訪れるたびに、基地に対する反対運動が盛んに行われているのを目にしてきました。ただ、これらの問題に対してユース世代の私たち自身が考え方行動すべき課題だと分かってはいましたが、移住するまではどこか遠い国のことのように感じていました。

しかし、もう人ごとではありません。自然の豊かさや人の温かさに魅了される反面、終戦から74年がたった現在も、米軍基地が沖縄本島の約15%を占領し、多数の戦闘機や飛行機が基地に入りするなど、戦争が今もなお続いている現実にあらためて気付かされました。



平和学習会の様子

私は基地や戦争について、誰もが「考え方・行動」することを止めてはいけないと思います。そして、ユース世代の私たちは、戦争や基地のもたらした影響について戦争体験者の生きた言葉から学び、後世に語り継いでいく「語り部」の役割を担っていくことが、平和と共に歩む上で必要だと思います。

沖縄YMCAでは、これから学童保育に加え、野外活動クラブを立ち上げ、茨城YMCAで学んだ知識や経験を生かした活動を展開していきます。沖縄の豊かな自然を愛し守り、歴史的背景のある地域だからこそ、平和とは何かと共に「考え方・行動」をしていくことの重要性を子どもたちに伝えていきたいです。ぜひ、沖縄に訪れた際には、沖縄YMCAにも足を運んでください。

Positive Net NEWS

ポジティブネット…互いを認め合い、高め合うことのできる、人の善意や前向きな気持ちによってつながるネットワーク

2019年度全国YMCA インターナショナル・チャリティーラン開催



全国のYMCA障がい児プログラムを支援するために東京から始まったチャリティーランは、2018年度はランナー、ボランティア、スタッフを含め13,000人以上が参加し、約4,400万円のご支援をいただきました。

今年度は全国21カ所で開催されます。

埼玉YMCAインターナショナル・チャリティーランにて各チーム一齊にスタート どうぞ奮ってご参加ください。

YMCAインターナショナル・チャリティーラン 2019 開催スケジュール

YMCA	開催数	開催日／場所
和歌山	第7回	4月28日(日) 和歌山市民スポーツ広場
北海道	第24回	5月12日(日) 北海道立真駒内公園
京都	第14回	5月19日(日) 鴨川公園
滋賀	第4回	6月 2日(日) 希望が丘文化公園
山梨	第22回	6月 8日(土) 甲府市・小瀬スポーツ公園
とちぎ	第14回	6月23日(日) 道の駅 うつのみや ろまんちく村
盛岡	第3回	9月23日(祝・月) 岩手県立大学
仙台	第25回	9月23日(祝・月) 東北学院大学 泉キャンパス
東京	第33回	9月23日(祝・月) 木場公園
大阪	第25回	9月23日(祝・月) 花博記念公園鶴見緑地 特設コース
千葉	第22回	10月19日(土) 船橋市運動公園
福岡	第10回	10月19日(土) 鴻臚館広場
奈良	第8回	10月27日(日) 平城宮跡
名古屋	第26回	11月 2日(土) 名城公園
神戸	第22回	11月 4日(祝・月) しあわせの村
埼玉	第20回	11月 4日(祝・月) 航空記念公園
横浜	第22回	11月16日(土) みなとみらい21臨港パーク
茨城	第6回	11月16日(土) 洞峰公園
鹿児島	第10回	11月16日(土) 白波スタジアム
広島	第25回	11月23日(祝・土) 広島市中央公園
熊本	第4回	12月 8日(日) 熊本県農業公園 カントリーパーク

*詳細は各YMCAにお問い合わせください。

主催:各YMCA
共催:ワイスメンズクラブ国際協会東西日本区、日本YMCA同盟 国際賛助会

全国協賛:三菱商事株式会社

全国後援:内閣府、厚生労働省、(福)全国社会福祉協議会

アジア・世界のYMCAから

□気候変動問題に関するメッセージ [世界YMCA同盟総主事]

気候変動対策に対する抗議のための若者による「学校ストライキ」が広がっています。YMCAは、このようなアクションに賛同し、若者の参画とエンパワーワーを通して持続可能な世界の実現のために、気候変動問題の解決に向けて行動することを訴えるメッセージを発信しました。



ベネズエラの市民

□人道危機についての報告 [南米・ベネズエラYMCA]

社会と経済の混乱、食糧危機などによって多くの人びとが苦しみ、ベネズエラからの移民、難民の数は世界中に300万人にまで及んでいます。ベネズエラYMCAは、このような状況下でも公平で平等なコミュニティを築くために活動を続け、多くの人びとの希望となっています。また、世界のYMCAもこれを支援しています。

□バスケットボール教室 [米国・ニューヨーク州 ロームYMCA]

地元の青少年スポーツクラブの高校生選手がボランティアで、未就学児から小学低学年が対象の教室でコーチを務めています。若者の成長の機会となり、子どもたちの良き模範にもなっています。



□アジア・太平洋YMCA大会 大会ロゴ決定

本大会のロゴが決まりました。大会では、「Living Together Within Nature on a Path to Peace—自然の恵みに抱かれ、平和に向かって共に生きる」をテーマに私たちが自然の一部として暮らしを営み、平和と調和のとれた社会へと導くために何ができるかを考えます。

●記事の続きは日本YMCA同盟の「世界のYMCA」ページに掲載しています。ぜひお読みください。

日本YMCA同盟 検索